

平成28年度学校自己評価システムシート (県立川口工業高等学校 (定時制))

目指す学校像	工業技術の基礎・基本を学び、ものづくりの心を育てる楽しく明るい学校
--------	-----------------------------------

重点目標	1 授業内容や教材等を工夫し、基礎学力の充実を図る 2 個々に応じた勤労意識の育成とキャリア教育を充実させる 3 規律ある態度を育成する 4 地域に根ざした開かれた学校づくりを推進する
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	2名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 (1 月 1 0 日 現 在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	① 登校状況・授業への参加意欲は徐々に向上しているが、普通教科の基礎学力が不足、基礎学力を向上させ、主体的な学びの態度を育成することが課題である。 ② 専門教科で感じているものづくりの楽しさが学習意欲や将来への意欲につながっていない。次への意欲につなげることが課題である。	基礎学力を向上させ、専門教育のさらなる授業改善を行う。	① 1年次の普通教科の指導では学習支援員を活用して個別指導を展開し、基礎学力を向上させる。 ② 初任者研修等の授業公開や授業研究を契機に「やっぱり工業はおもしろい」という視点での授業改善を行い、ものづくりの楽しさ実感は次への意欲につなげる。	① 授業への参加意欲が高まった生徒の割合(昨年度生徒アンケート57.8%) ② ものづくりに関わる仕事に就きたい生徒の割合(昨年度生徒アンケート54.2%)	年次が上がるにつれ落ちていて授業を受けているが、主体的に学ぶ姿勢のある生徒はまだ少数である。 ① 参加意欲が高まった生徒は61.3%(昨年度比+3.5p) ② ものづくりに関わる仕事に就きたい生徒は58.7%(昨年度比+4.5p)	A	課題は継続される。 ① ほとんどの授業が落ち着いて行われているが、入学者の質的变化、教員の異動もあるため授業規律確保は改めて検討、共通理解を持つことが次年度の課題である。 ② 工業部会への参加も端緒につき、専門教科の授業に反映させることが課題である。
2	① 入れる学校として入学してくる生徒も多く、毎年1割以上の生徒が中途退学となる。進路意識を高めて中途退学者を減少させることが課題である。 ② 平成27年度卒業生は42.9%が進路未定のまま卒業した。在学中に進路希望を明確にさせ、進路確定者を増加させることが課題である。	今年度取り入れたキャリア教育・進路行事の定着化を図るとともに枠組みを構築する。	① キャリア教育・進路行事を通して生徒の将来への展望を育む。 ② 就職支援アドバイザー活用やハローワークとの連携により個別指導を行い、進路意識を向上させる。	① 進路希望未確定者の割合(昨年度生徒アンケート36.1%)及び中途退学者の割合(昨年度13.7%) ② 4年次生徒の内定者の割合(昨年度57.1%)	キャリア教育・進路行事を年間行事予定に位置づけた。中退者については、特に将来設計の意欲に欠けている。 ① 進路希望未確定者は33.3%(昨年度比-2.8%)、中途退学者は15.5%(昨年度比+1.8%) ② 4年次生との内定者の割合は66.7%(昨年度比+9.6p)	B	課題は継続される。 ① 12月までに8件の入学相談での来校(昨年度は年内の来校はなし)があった。本校志願者の学校見学について周知することは課題である。 ② 本校卒業後の生き方を想像すらできない生徒も多い。キャリア教育・進路行事を定着させ、生徒の意識を向上させることは課題である。
3	① 平成27年度は欠席30日以上が18名おり、うち7名が中途退学した。欠席の多い生徒には登校支援を行い、進級・卒業させることが課題である。 ② 生徒指導上の大きな問題は減少している。生徒の学校への意欲・規範意識向上のため部活動活性化が課題である。	学校への帰属意識を高め、自律・自立の気持ちや態度を育成し、規範意識を向上させる。	① 欠席の多い生徒については家庭状況も把握して情報共有を図り、校内外の組織・機関と連携しながら支援を行う。 ② 積極的な部活動指導を通して学校への帰属意識と登校意識を高める。	① 欠席30日以上の子どもの割合(昨年度22.3%) ② 全部活動の活動のべ日数(今年度新規 昨年度約370日)及び部活動参加率の割合(今年度新規)	欠席過多により未履修科目を持つ生徒が例年より多くなったが、学校行事等の出席は例年より良好であった。 ① 欠席30日以上の子どもの数は15名で16.7%。うち5名はすでに転退学。 ② 部活動のべ活動日数は約300日。参加率は38.5%。柔道部は2年連続全国大会出場。	A	課題は継続される。 ① 不登校ではないが、欠席数過多により未履修となる生徒が例年より多い。その対応は今後の課題である。 ② 生徒数減少や生徒会行事(遠足・球技大会)充実もあり、年次を越えた交流も増えている。生徒自身によるより良い学校づくりの姿勢構築は今後の課題となる。
4	① 子どもに関わろうとしない保護者や定時制に関心を持たない地域の方も多し。保護者や地域に対し、さらに情報を発信することが課題である。 ② 志願者が毎年減少している。本校の特色を広報し、志願者を増やすことが課題である。	本校の情報を発信し、本校に対する保護者や地域の理解を高める。	① 本校教育活動を周知するため学校公開や学校ホームページの随時更新を行う。 ② 本校教育活動を周知するため、組織的な地元中学校等諸機関訪問や見学受け入れ等により連携していく。	① 学校公開への参加者数(昨年度3名)及びホームページ更新数(昨年度117回) ② 地元諸機関への訪問回数(昨年度37回)	保護者の子どもへの関心が高まっている傾向にある。また、近隣住民の関心も高まっていると感じる。 ① 学校公開への参加者数は14名(昨年度比+11名)。HP更新数は93回。 ② 地元諸機関への訪問回数は16回ながら、市内11中学校合同進路部会に出席。	A	保護者や近隣住民の理解は進んでいる。 ① 地元自治会の方たちから生徒に対する労いの言葉が聞かれるようになった。地元への教育活動周知が課題である。 ② 子どもを入学させて良かったと答えた保護者は96%。保護者から地域への広報も課題と考える。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成29年 3月14日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
○目の前の課題をとりあえずこなすだけでなく、学び続けることに慣れる大切さを生徒が自覚することができれば。 ○先生の負担は大きくなるが、基礎的な学力の指導をお願いしたい。 ○真面目に取り組まない生徒が単位を取れるのはおかしい。 ○「何となく…」で入学してくる生徒の気持ちを変えることは難しいが、在学中に好きなことを見つけそのために働く喜びを覚えて欲しい。 ○卒業生や地元の工場等で働く職人さんの話を機会を設けたらどうか。 ○将来の希望が分からない生徒が多い。 ○1～4年生全体での活動が増えていることはとても良い。 ○生徒会行事等、年次を越えた縦のつながり生徒にとって良い刺激となっている。 ○四送会のボーリング大会はみんなの協力もあって盛り上がり良かった。 ○もっと部活の日を増やして欲しい。 ○子どもを高校に入学させたら手が離れると思っていたが、子どもに関心を持っていたと思う。 ○地元自治会の方からの労いの言葉を知りたい。	